



金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若陽子

編集責任者：般若慎一郎

9月29日に西条校下住民運動会が開催され、金屋町住民は婦人会役員などおよそ40名が参加し、12チーム中10位の結果でした。ちなみに優勝は昨年に続き昭和町。

金屋町チームの弱みはやはり参加者が少ないことです。種目によって年齢や性別が制限されている場合は、該当する人がいないと棄権せざるを得ません。今回は児童クラブ男子が極端に少なかったのですが、男子の種目に女子が出場することを認めてもらえたのが救いでした。来年はもっと多くの参加が期待されます。

新森春香とさきが主人公に 短編映画「すず」

示しています。12月以後は規模を縮小して新森春香コーナーを残す予定にしています。

「すず」のWEBサイトで映画を公開していますし「新森常次郎とさき」の紹介もしています。<http://suzu-takaoka.com/>

おごそかに勇壮に ふいご祭り

11月8日、有磯正八幡宮において高岡鋳物関係者達と金屋町自治会役員などが集まり、恒例のふいご祭りが開催されました。今年は西条小学校に加えて横田小学校からも5年生児童合わせて約120名が見学に来て、真っ赤に焼けたるつぼから注湯される様子に歓声を上げていました。

高岡伝統産業青年会が40周年記念に作った短編映画「すず」が公開されましたが、思わぬ展開になっています。

監督の菱川勢一さんが金屋町楽市の時に下見に来て、鋳物資料館で開催中の企画展「新森春香（本名は常次郎）回顧展」を見て感じるころがあったようで、新森さきと常次郎を主人公のモデルにしてみました。映画の主人公の名前が、新森すずと新森たかしになりました。そしてエンディングでは「新森常次郎・新森さきに捧ぐ」との文字が入りました。



夫婦の合作：鯉の花瓶

身体障害にめげず、妻さきと共同作業で作品を作り続けた新森常次郎さん夫妻に、主人公のすずとたかしを重ね合わせたものと思われます。主役のすずを演じた村上真希さんも鋳物資料館へ複数回訪れ、新森夫妻の作品やパネルを熱心に見ていたそうです。

伝統産業青年会からの要請を受け、「新森春香回顧展」を急遽11月末まで期間延長して展



この日はあいにくと不安定な天候で、鋳造式を始めようという11時15分頃から強いわか雨が降りましたが、なんとか無事に終了しました。

生涯学習として 古文書に触れて

金屋古町 鍋谷正生

高岡市立中央図書館主催の「古文書を学ぶ会」に参加して早いもので五年程になります。リタイヤと大病を同時に体験し、そのショックを素直に受け止めるまで随分時間を要しました。人生とは、生き方とは、そして自分の生い立ちは、などと考え巡らせるほどに、その域を全うされた先人達の事が浮かんできて、どのような生活や思いを経験したのだろうと、探求心にスイッチが入った時に期せずして「古文書を学ぶ会」に出会ったのです。

古文書の定義は、「甲から乙という特定の者に対して甲の意思を表明するために作成された意思表示の手段（文書）」と、一般的に理解されています。

江戸時代には兵農分離制度で、武士が農民や町民を遠隔地支配する為の通達や訴願などの文書が恒常的に往復しました。参勤交代、幕府や藩の官僚機構の公文書記録、民間社会に於ける経済活動や社会活動の記録などもあります。「徳川の平和」

の江戸時代は文書主義の時代であったと言われるほどに多くの古文書が残されています。

さて以下は、今年学んだ「御用方留帳にみる幕末期の金屋鋳物師」一部抜粋二例です。

*表出人別切願承候事

金屋町の釜屋八三郎の妹、ゆきさん二十歳が山伏油町の聖久寺のお嫁さんになりますので人別切（現在の戸籍）から転出願届の文書記録。釜屋八三郎さんから高岡町御会所御用方留帖記入者「肝煎竹村屋義太郎」への届願です。

*壱腰 脇刺

金屋町の鍋屋五右衛門さんが、今朝起きて表

に出たところ向かいの釜屋清助さんところの前のえんぞろ（側溝）に、脇差（小刀）が一振り落ちて居ったので、清助さんはじめ御近所に尋ね回ったが持ち主が知れず、鍋屋五右衛門さんから肝煎竹村屋義太郎へ届け出た事の覚書です。

古文書に接しての私の感想ですが、時代や体制は異なっても、そこに生きる人々の真剣な心に共感をおぼえます。

地域公共交通フォーラム

万葉線の昭和通り延伸を考える②

11月9日、ウィングウィング高岡において首題のフォーラムが開催され、高岡商業高校、高岡第一高校、高岡西高校の生徒達や沿線の住民など約80人が出席して意見交換しました。

まず主催者のRACDA高岡から万葉線昭和通り延伸試案について報告があり、続いて富山県出身で京都大学大学院教授の中川大さんが「まちづくりとLRT」と題して基調講演、3高校の生徒から万葉線に関する構内アンケートの発表と続き、その後中川教授と3高校の校長先生それに金屋町まちづくり協議会の般若慎一郎副会長がパネル討論を行ないました。

この問題は巨額の費用もかかり、簡単に実現できるものではありませんが、将来へ向けての夢として時間をかけて取り組んでいくべき課題ではないでしょうか。

